

令和2年度 第2回 東海村子ども・子育て会議 議事録

会議名等	令和2年度 第2回 東海村子ども・子育て会議
日時	令和3年3月25日(木) 14:00~16:00
場所	東海村 中央公民館会議室4・5
出席委員	神永直美(会長), 境洋子(副会長), 佐藤彰, 諏訪健一郎, 秋葉美智代, 小林祐子, 鹿志村茂, 諏訪泰子, 千葉香, 鈴木香代, 戸祭久則, 近藤壽子, 中川輝夫 (順不同・敬称略) 14名中13名出席
事務局	小川課長, 秋山課長補佐, 稲田課長補佐, 志村課長補佐, 宮河係長, 田所主事(記録者)
次第	1 開会 2 子育て支援課長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 (1) 東海村立けやきの杜保育所の定員変更について (2) 「村立保育所, 幼稚園等に関する再編整備基本計画」の進捗状況について 5 その他 6 閉会
資料	【事前配布資料】 ・【資料1】東海村立けやきの杜保育所の定員変更について ・【資料2】見直し後の「村立保育所, 幼稚園等に関する再編整備基本計画」進捗状況 ・【資料2-1】村立幼稚園再編に向けた協議・検討の進め方 ・【資料2-2】村立幼稚園再編に向けた課題に対する考え方【1】 【当日配布資料】 ・【資料2-3】村立幼稚園再編に向けた課題に対する考え方【2】
議事内容等	

- 1 開 会
- 2 子育て支援課長あいさつ
- 3 会長挨拶

今年度は新型コロナウイルスに翻弄された1年だった。やっとゴールが見えてきたと思ったが、またゴールが遠くなってしまった。私が園長をしている附属幼稚園では、研究会をどのようにしようか悩んだが、2月にオンラインで保育を公開した。いろいろなアクシデントはあったものの、日頃足を運ぶのが難しい離島や北海道、九州、富山など様々な場所から参加してもらえた。今までと違う研究発表会の結果を模索できた。こういうことがなければ一步踏み出す勇気が到底持てなかった。何か発信しなければならぬということで実施したが、これがひとつの新しいやり方につながった。皆様にとっても悩みの1年だったと思う。前に進んでいかなければならない。

- 4 議事（会長による議事進行）
 - (1) 東海村立けやきの杜保育所の定員変更について
 - (2) 「村立保育所、幼稚園等に関する再編整備基本計画」の進捗状況について
- 5 その他
- 6 閉会

■審議内容

(1) 東海村立けやきの杜保育所の定員変更について

【委員】

小規模保育事業所の現状はどうなっているのか。1歳児、2歳児の定員を2名ずつ増やしても、3、4、5歳児を増やさなくて良い場合もある。けやきの杜保育所の定員が小規模保育事業所の受け入れをする前提で構成されている人数であれば、満杯ならばこの考えしかないけれども、余裕があるのであれば必ずしもこの人数でなくても良いと思う。

【事務局】

小規模保育事業所は0歳児から2歳児までの受け入れとなるため、3歳児からは連携施設へ行く。小規模保育事業所の繰り上がりは、けやきの杜保育所で受ける前提となっているため、定員に余裕があるからといって7名分を確保しないわけにはいかない。

実際には、今年度のキララ東海ナーサリー卒園の7名中4名がけやきの杜保育所へ行く。他の児童は幼稚園や民間の保育所への希望があり、他の施設に行く。年度によってばらつきはあると思うが、概ね半分以上はけやきの杜保育所に行くと思込んでいる。

【委員】

小規模保育事業所からけやきの杜保育所へ行く分で定員増をしており、7名が行けば計画通り。しかし、4名となると、けやきの杜保育所の定員を増やしても差が出てくる。あくまで、計画は変動があることを前提にしなければならない。今後の課題になるだろう。これから作ろうとする小規模保育事業所も真剣に検討していかなければ、私立や公立の存続が難しくなる。

(2) 「村立保育所、幼稚園等に関する再編整備基本計画」の進捗状況について

【委員】

村松幼稚園に統合されたら、園児は何人くらいになるのか。

【事務局】

170人ほどを想定している。令和2年度の出生数が減り、令和3年度も少子化に拍車がかかることが予想されるが、だいたい170人ほどを予定している。

【会長】

170人なら6クラスになるのか。

【事務局】

6クラス+ α 。単純に各園の園児が村松幼稚園に来ると170人だが、これを機会に他の保育施設への入園を検討するという事も考えられる。キャパシティは問題ないが、クラス数がどうなるかについてはもう少し時間が必要。

【委員】

令和6年度に舟石川幼稚園、須和間幼稚園が村松幼稚園に統合となっているが、その時の年少さんたちはどうなるのか。

【事務局】

令和6年度の例を言うと、令和5年度の舟石川幼稚園、須和間幼稚園の年長さんは卒園、年中さんと年少さんは令和6年度に進級と同時に村松幼稚園へ転園する。新3歳児は最初から村松幼稚園に入る。

【副会長】

村松幼稚園という名称はそのまま使うのか。

また石神幼稚園は、人数は少ないが地域の方が立哨をして見守りを行っている。さらに、小学校へ入ったら歩いて通う。そのような中、バスで送っていくのではなく、歩くことも大切だと思う。地域の方と交流することも大切だが、村松幼稚園へ石神学区の高齢者が行くのは難しいと思う。そういったことも考慮してもらえるのか。

【事務局】

名前については積極的に変える予定はない。しかし、これを機会に新しい公立幼稚園のあるべき姿を見直す良い機会である。若い幼稚園教諭の中で、それを一生懸命やりたいという声も多々ある。その中で名称の変更についての意見が出てくるかもしれないが、現時点ではその考えはない。

いろいろ意見をいただいたが、この後の検討事項としても考えていかなければならないところなので、今後の課題として受け止めていく。

【委員】

アンケートについて、回答率が低いのではないか。また、どういった内容だったのか。

【事務局】

年齢や学区などの基本情報のほか、村立の幼稚園に対してどのようなことを期待するか、村松幼稚園1園になることで不安に思う点や心配な点、どのような教育・保育サービスがあれば幼稚園を利用したいと思うかなどについて聞いた。

【委員】

33.6%の回答率は低いと思う。半分くらいはあっても良いと思う。事務局としては妥当と考えているのか。

【事務局】

確かに33.6%は少ないのかもしれない。一方で行政がアンケートを行う際、3割という数字は多くはないが妥当ではないか、という意見もあり、考えは分かれる。残りの7割が何も思っていない、興味を持っていないということではないと思う。

【委員】

対象が未就学児ということは、すでに保育園や幼稚園に入っている人、今後幼稚園に入ろうと思っていない人などがある。これでは分析が足りないと思う。幼稚園に行く人だけにアンケートを取る場合と、保育園にいて幼稚園に行く必要がない人にもアンケートを取った場合には、回答率は変わる。自分が期待していれば回答するが、保育園に行くと思っていれば回答しない。そのあたりの分析がなければ3割が多い、少ないといった話はできない。これに答えた人たちはどういった人たちなのか、ざっくりでも分析が必要。

【事務局】

回答者の割合としては、幼稚園へ通園中が27%、保育所に通園中が29%、認定こども園に通園中が12%、在家庭が33%となっている。(小数点切り上げ)

【委員】

預かり保育について、今は17時までで、今後就労に限って18時まで延ばすとのことだが、2号認定としてどのくらいの利用者を見込んでいるのか。

【事務局】

2号認定、新2号認定の利用という概念よりは、石神幼稚園と須和間幼稚園で就労に限り18時まで通常の預かり保育+1時間を行っているため、現在のサービスに統合先の園のサービスを合わせていくという観点から実施する。明確な人数の積み上げよりは、現状に即したかたちでの対応となる。

【会長】

2号認定、新2号認定をあえて対象とするのであれば、18時まででは短いのではないかと。19時までならば、利用率は上がると思う。

【事務局】

公立のサービスの役割として18時まで預かることができるという認識で、まずは良いのではないかと。本当の意味で2号認定、新2号認定を意識するのであれば18時では時間が短いかもしれないので、統合した後の今後さらなるサービスの拡充で検討が必要となる。

【会長】

ホームページでアンケートの回答を見てみると、「保育園がだめであれば幼稚園を希望する」という方がいる。そういったところを対応できると救われるのではないかと。

【事務局】

保育所に入れなかった方たちの選択肢の1つとしての幼稚園の役割は、国からも求められている。そこを意識しながら対応していかなければならない。

【委員】

15年位前から保護者から要望があつて、給食を提供したり、園バスを走らせたりした。村立幼稚園が園バスを回す計画をするときには検討に入れてほしい。園バスを走らせるのは大変。保育時間に間に合うように路線を考えなければならないし、あまり早すぎてもだめ。3台の園バスで6コースを回っているが、エネルギーが必要。運転手の人件費も必要。保護者の希望を叶えたいから実施しているが、もし、村で実施するなら(金銭面で)助けてほしい。

【事務局】

この場での即答は控えるが、村で園バスを配車するときには先進事例としてご教示いただきたい。

【会長】

「(仮称)村立幼稚園再編に向けた検討会議」の設置を見送ったとあるが、会議への参加を呼びかけ

た時期はいつなのか。

【事務局】

令和2年10月9日に説明会を行って、その後に声掛けをした。

【会長】

あまり関心がなかったのか。

【事務局】

そういう訳ではない。検討会議は、再編整備の可否を議論するのではなく、再編整備に向けてこれからどうしていくのかを議論する会議として予定していたため、そこに保護者が賛同して会議に参加することはできないとのことだった。そうであっても子どもたちのために参加すべきだと考えた園もあったが、そうでない園もあったということ。

【会長】

先のことが見通せるようになってきたので、再度働きかけをしていった方が良いのではないのか。保護者を置き去りにしてしまうのではないのか。

【事務局】

コロナ禍ということもあって、人を集めることを控えるということもあったが、その代わりにアンケート調査を行ったり、いろいろな機会に意見を聴取する機会を設けたりしてきた。状況が進んでいる中で、新たな検討会議もひとつの方法かもしれないが、今の時点ではその考えは持ち合わせていないので、ご意見として伺う。

【会長】

検討会議に4園がそろわなかったからアンケートを行ったのか。

【事務局】

そろっていても実施していたかもしれないが、それはあくまで結果論。

【委員】

議会に請願が出されて、それが不採択になったとのことだが、どういった内容だったのか。また、請願が出されて不採択になったのは、予算的なことなのか、内容的なことだったのか、それとも何かしらの条件が出されたのか。不採択だったとしても、反映できるところは反映できれば温かい印象になるのではないのか。

【事務局】

請願の内容は、「東海中学区と東海南中学区にそれぞれ1つずつ幼稚園を残してほしい」といったことだったが、それについては不採択となった。その議論の中で出された意見として、「とうかい村松宿こども園のなかで、舟石川幼稚園と須和間幼稚園の分の入園枠を広げることを考えるべきではないか」という意見があった。すべて請願が無になったわけではない。枠の拡大について、村としては考えていきたいとしている。

【委員】

請願する立場からすると、村の端にあるとうかい村松宿こども園の入園枠を広げることで、一部が認められたということは言うべきではない。「舟石川からとうかい村松宿こども園へ行きなさい」というのはいかがなものか。それであれば「1園にします」といった方が良いのではないのか。保育園や幼稚園を作る場合、どこに作るかは大切なこと。議会の意見なのか、事務局の意見なのか。

【事務局】

議会の中で、東海南中学区のとうかい村松宿こども園の入園枠拡大となったわけではない。むしろ、

とうかい村松宿こども園の入園枠を広げてほしいというのは、保護者からの声だったと聞いている。立地等を踏まえてとうかい村松宿こども園が望ましいとなったわけではない。

【委員】

そうであればとうかい村松宿こども園の入園枠を増やすのは、幼稚園部分の入園枠を増やすということで、限界はある。100人も増やせるわけではないので、その返答ではいかなものか。保護者との間がぎくしゃくしている。村の位置的な問題についても、いろいろ出てくると思う。この委員会の中でどうこうできる話ではなくなってくるので、より大きなところで決められていくのではないか。丁寧に意見を吸い上げないと、一方的になってしまうので慎重にやってほしい。

【事務局】

その通りなので、胸に刻んでいきたい。請願に対して、とうかい村松宿こども園の入園枠を広げることと交換条件にしたわけではないと思う。請願者の方が議会との意見交換において、こういったこともできないかと話している中で、検討を求められたものである。

【委員】

30年位前から、全国的に「民間でできることは民間で」という流れだった。幼稚園は民間だけでできることだったが、東海村は各小学校区に公立幼稚園が1つあった。時代遅れな感じがしていた。先生の働き場所が厳しくなるのではないか。私立の幼稚園では、一人の先生を増やすのも厳しい。もっと頼ってほしかった。村の幼稚園の場所を貸してくれるなら私立が行ってお迎えすることもできた。手伝えることなら手伝いたいと思っている。

以上